

# 県大 jiman

特集1

## 県大学科 jiman

特集2

## 県大探検

突撃! jimanな先生: 南川久人 教授

After School Report: 劇団深夜特急

News: サマープログラム

2016  
JULY  
019  
滋賀県立大学広報誌

滋賀県立大学

KENDAI JIMAN

### 県大イベントカレンダー

- 7月 09日 調整期間(火曜日授業の補講等)
- 13日 第5回就職セミナー(業界研究セミナー)
- 16日 調整期間(水曜日授業の補講等)
- 18日 調整期間(月曜日授業の補講等)
- 23日 オープンキャンパス
- 24日 オープンキャンパス
- 29日 調整期間(金曜日授業の補講等)
- 30日 調整期間(木曜日授業の補講等)、前期授業終了
- 8月 01-05日 前期定期試験
- 06日 夏季休業開始
- 08-10日 調整期間(集中講義)
- 19-21日 地域活動実践ターム
- 23日 大学院入学試験(人間文化研究科博士前期課程)
- 25日 大学院入学試験(工学研究科博士前期課程)
- 26日 大学院入学試験(工学研究科博士後期課程)
- 9月 07-09日 調整期間(集中講義)
- 14-16日 調整期間(集中講義)
- 26日 大学院入学試験(環境科学研究科博士前期課程)
- 27日 大学院入学試験(環境科学研究科博士前期課程)
- 28日 大学院入学試験(環境科学研究科博士後期課程)
- 29日 夏季休業終了
- 30日 後期授業開始
- 10月 07日 第6回就職セミナー(就職活動本番準備セミナー)
- 13日 大学院入学試験(人間文化研究科博士前期課程)
- 14日 大学院入学試験(人間文化研究科博士前期課程)
- 19日 第7回就職セミナー(業界研究セミナー)
- 25日 大学院入学試験(人間看護学研究科修士課程)
- 29日 保護者向け就職説明会
- 11月 05日 第8回就職セミナー(ES対策セミナーと模擬テスト)
- 11日 大学祭前日準備(全学休講)
- 12日 大学祭「湖風祭」
- 13日 大学祭「湖風祭」
- 14日 大学祭後片付け(全学休講)
- 16日 第9回就職セミナー(冬のインターンシップの選び方)
- 27日 特別選抜試験
- 12月 03日 TOEIC-IPテスト
- 07日 第10回就職セミナー(ビジネスマナー講座)
- 17日 第11回就職セミナー(面接対策とGD対策)
- 21日 第12回就職セミナー(学内業界研究会事前説明会)
- 27日 冬季休業開始
- 1月 03日 冬季休業終了
- 04-06日 調整期間(集中講義)
- 13日 センター試験前日準備(全学休講)
- 14日 大学入試センター試験
- 15日 大学入試センター試験
- 18-20日 学内業界研究会
- 28日 調整期間(月曜日授業の補講等)
- 31日 金曜日の通常授業

# 県大 jiman

年2回発行

夏号7月上旬

冬号2月下旬

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」第19号  
発行 | 滋賀県立大学広報委員会  
編集 | 広報誌作成グループ  
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500  
TEL | 0749-28-8200 FAX | 0749-28-8470  
E-mail | keiei\_kikaku@office.usp.ac.jp  
発行日 | 2016年7月  
www.usp.ac.jp  
紙面デザイン：本保絵莉子 小川萌香 林晶

特集1

特集2

## 県大学科 jiman 県大探検

県大 jiman19号のテーマは「元気」です。

最近「疲れている」「元気ないな」なんて感じることはありませんか？

そんなときは迷わず県大 jiman を手にとってください。

今回の県大 jiman では、元気な県大生が集まる県大探検第2弾に加え

各学科の元気な自慢を大公開する学科 jiman を特集します。

さあ、元気の源をたっぷりお裾分けしてもらいましょう。

学生広報スタッフ大募集！

広報誌作成グループでは、県大 jiman の作成に参加してくれる学生を募集しています。

私たちと一緒に、県大の素敵な「jiman」をしてみませんか。 デザインや編集の専門知識が無くても大丈夫です。

外部のデザイナーさんや編集者を招いて勉強会なども行う予定ですので、興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

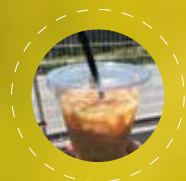
編集後記 テーマ：元気の源



レモンとレモンのお菓子が大好きです  
クエン酸をとりましょう  
生活デザイン学科 本保絵莉子



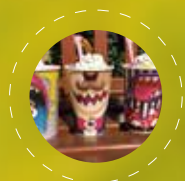
元気が欲しい時はご馳走が一番！  
生活デザイン学科 林晶



カフェインは私の相棒です  
生活デザイン学科 小川萌香



それぞれに個性のある時計が元気の源です  
機械システム工学科 吉川知秀



大好きな友達と甘味です  
私に糖分をお与えください  
地域文化学科 小林真紀子



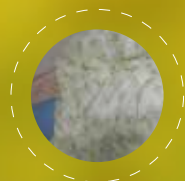
時間があれば  
ゲームでリフレッシュしています  
人間関係学科 樋口怜奈



通学時には手放せません  
人間関係学科 池田真菜



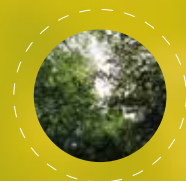
美味しいものは  
糖と脂肪でできている…  
人間関係学科 岸本沙希



お布団です  
この場所は譲りません  
人間関係学科 山根光穂子



バスタイムは至福の時間  
草津温泉に行きたいです  
環境生態学科 藤森智世



天気の良い休日は散歩へ  
緑に癒されます  
国際コミュニケーション学科 足立実音



ベタですが、たまに飲んで元気出してます  
事務局 今村圭吾



最新の家電製品には目がないです  
事務局 中嶋崇裕



疲れたときはお肉を食べましょう  
OB 高杉昭吾

## CONTENTS

特集

03 県大学科 jiman

07 県大探検

県大 REPORT

09 突撃！ jiman な先生：南川久人 教授

11 After School Report：劇団深夜特急

12 information

13 News：サマープログラム

## 国際コミュニケーション学科

- ・様々な国の文化や歴史を学ぶ中で、普段自分が当たり前だと思っていることがそうでないことを再認識させられた。
- ・色々な国について学ぶことができたし、それによって**日本を見つめ直す**ことができた。

## 材料科学科

- ・高校で得た知識を**実験**で体感できる。
- ・化学・物理の問題の考え方を学べた。
- ・論文の練習となる文章の書く練習ができる。

## 環境建築デザイン学科

- ・実際にものづくりをすることで、講義を聴講したり設計課題を熟すだけでは絶対に得られなかったであろう、気付きや考える機会を与えてくれる。
- ・活動に携わる中で「**デザインとは何か**」「**学びとは何か**」と、**本気**で考えるようになった。
- ・幅広い分野の知識とアンテナを張って、様々な情報をキャッチする力。それらをまとめたり、構築したりする力がつく。プロデュース能力。

## 人間関係学科

- ・ヒトが行っている**当たり前の行動**に注目すること。

## 環境政策・計画学科

- ・「**とにかく現場へ!**」という精神
- 1年生の頃から社会調査のスキルをきたしてもらい、卒論の調査へとつながっています。
- ・合意形成やファシリテーションの知識や技術は他ではあまり教わらないものであり、また、その能力は卒業後にどんな業界へ進んでもその力を生かせる場面があると思う。そんな能力を養える学科。

## 地域文化学科

- ・古文書がスラスラ読めるようになりました!
- ・いろいろな古い絵巻を見れた。滋賀の民族の知識、地図の楽しい読み方を教わった。

地域文化学科 2年  
鈴木あかりさん



環境建築デザイン学科 2年  
大西祥生さん

## 電子システム工学科

- ・様々な機器を扱い、**実験**をたくさん行える。
- ・プログラミングや電子・電気回路の知識や技術。

## 機械システム工学科

- ・学内の工場で実際に使用されている機械に触れられたこと。



機械システム工学科 2年  
吉川知秀さん 山田智行さん

## 環境生態学科

- ・県大周辺の環境を始め、多くの自然環境について、そのメカニズムを知る機会を得た。
- ・環境に対し、様々な方面からのアプローチを行えること。

# 自分の学科で 得られたものは 何ですか？

県大にはたくさん学科がありますが、皆さんはどれくらい他学科について知っていますか？  
自分の近くで他の学生がどんな環境でどんな勉強をしているか、知らないままではもったいない！  
県大 jimanai では多くの学生にアンケートをとって各々の学科についていろいろ聞いてみました。  
アンケートに答えてくれた学生さんに出演していただきました！

環境科学部

工学部

人間文化学部

人間看護学部

## 生活栄養学科

- ・様々な**調理・加工・実験**等幅広い経験ができる。

## 人間看護学科

- ・病院まつりなど地域とのかかわり**コミュニケーション能力**
- ・医療の知識や技術と、課題に立ち向かう力。



人間看護学科 2年  
大澤風香さん

## 生活デザイン学科

- ・一つの物事について**服飾、道具、住居**の3方面から考える力がつく。
- ・レポートリー豊かな課題が出されるからいろいろなことを考える力が身に付いた。



生活デザイン学科 3年  
福本真生さん

## 生物資源管理学科

- ・自然とのふれあいから**遺伝子操作**まで体験できる。



とか、授業の話も!

# あるある。

まだまだあります、個性的な学科のエピソード。

川、用水路などがあると  
のぞきこむ。(環境生態学科)



大多数が4年生(ゼミ)になると農業を営む。  
野菜にやたら詳しくなる。(生物資源管理学科)

かんすうでんたく!  
(機械システム工学科)



No チェック No ライフ  
(機械システム工学科)

先輩方が、  
「え、それ柳宗理のフライパン!？」  
「え～いいな～!」  
「思い切って買った♡」  
という、まるでブランドバッグやコスメにつ  
いて話しているかのようにデザイナーの名  
前が出てきた会話はすごくデザっぽいと思  
った。(生活デザイン学科)



何かと授業が多い。  
食欲旺盛。(生活栄養学科)



先生がみんな男、有名人に似  
てる先生が多い。(材料科学科)



各々、好きな元素がある  
(かも) (材料科学科)



「料理得意そう」と言われる。  
食事調査に苦しむ。(生活栄養学科)

レポートの締め切り前日はテン  
ションが低い。(電子システム工学科)



話していると議論になりがち。  
(人間関係学科)

四月に黒くてでかいかばん持ってる人は  
デザ1年生。(生活デザイン学科)



学科の名前が長くてかむ。  
(環境政策・計画学科)



常に何かしら作ってる。  
(生活デザイン学科)

圧倒的メガネ率、メガネじゃなくてもコンタクトを  
つけてる人が多い。  
タイピングの音がうるさい。(機械システム工学科)



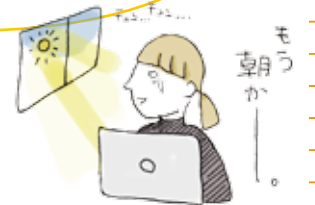
休日のプランが博物館巡り。  
眼鏡多い。マニアックな人た  
ちの知識が深い。(地域文化学科)



男子の縦のつながりがすごい。  
看護の専門用語で例えて話す。(人間看護学科)

通い勢は製図室に住みつく。  
徹夜しがち。(人によるかも)  
椅子を繋げて寝る。(環境建築デザイン学科)

色んな地域から来ている人が多いので  
まさに「多文化共生」!(地域文化学科)



授業の話!



畑で採れたキャベツをお好み焼  
きにして食べた。(生物資源管理学科)

食品加工実習、日本酒やみそ、こんにやくなど、  
なかなかできない調理実習や経験ができた。  
工場見学も楽しかった。(生活栄養学科)

授業で、この学科の卒業生から在学中や卒  
業後の話を聞く機会があり、「K先生はアイ  
スが好き」といった裏話も聞いておもしろか  
った。(環境政策・計画学科)



羊の毛刈りで羊が逃げて生徒がつか  
まえに行ったり、TAさんと嫌がる羊が  
格闘してた。(生物資源管理学科)

植木鉢を使って土器修復の  
練習をした授業。  
もののけ姫とゴジラを鑑賞  
した授業。(地域文化学科)



イメージ表現法、という授業が楽しい!ポスター  
を描いたり、チームで段ボールで椅子をつくら  
り...(環境建築デザイン学科)



英語IIBの授業では、アメリカやイギリスの  
コント番組が見れて、とても面白い。(国際コミ  
ュニケーション学科)

※柳宗理...日本のインダストリアルデザイナー

県大 jiman  
スタッフが行く!



# 県大探検 vol.2



前号に引き続き、県大 jiman スタッフが各学部棟の探検を決定しました。今号は工学部棟（C棟）と人間文化学部棟（D棟）に潜入取材！それぞれの学部の特色が現れている建物の中で、スタッフが特にオススメしたい「jiman スポット」を取り上げてみました。

## 人間文化学部棟って どんな建物？

人間文化学部棟は、各研究棟や実習棟が渡り廊下で繋がり、ひとつの建物のように成立していることが特徴に挙げられます。これらの建物は、近江に暮らす人々の民衆のイメージが形になったもので、人間文化という学問分野に相応しい、日本的・民族的な表情を随所に感じることができます。



D棟

## 人間文化学部棟

## 工学部棟って どんな建物？

工学部棟は開学当初から建てられていた部分（C1棟～C6棟）と、電子システム工学科が設立された時に建設された部分（C7棟）と2つに分かれます。どの建物もガラス張りの通路などでつながっているのも特徴の一つになっています。C棟は環境に対しても配慮された作りになっていて、建物を活用した空調システムや、電子システム工学科の学部棟などにはソーラーパネルが設置されています。



C棟

## 工学部棟

人間文化学部棟の横を通って共通講義棟へ向かう学生は多いと思いますが、その際に少し人間文化学部棟の建物の上を見上げてもらうと、3階の屋根の下に菱形の高窓が付いていることに気づくと思います。実はこの窓は中から見ると、こんな風に外の光を取り入れる役割を果たしています。この窓のおかげで、3階の研究室や教室が連なった窓の少ない廊下は、日中は照明を点けなくても十分な明るさを保っているのです。



jiman  
スポット

その  
1

高窓から降り注ぐ自然光が  
作り出す美しい空間



jiman  
スポット

その  
1

実習工場は  
縁の下の力持ち



外から見ると独特の形をした建物は、実習工場がある建物です。ここでは実際に学生が実習授業で機械を製作するだけでなく、工学部で行われている研究に必要なものも製作されています。まさにここは工学部の「縁の下の力持ち」というに相応しい所でしょう。



赤ちゃんが生まれました。

番外編  
jiman  
スポット

人間文化学部棟の外れにある溜池には、実は色々な生き物が暮らしています。この頃はアカミミガメをよく見かけます。そして、5月半ばには、彼らの小さな赤ちゃんが生まれていました。親子で甲羅干しをする姿は癒されますね。ただし、彼らは外来種です。むやみに生き物を放すことはやめましょう。

エントランスに設えられた緩やかな螺旋階段は、人間文化学部棟のシンボルの一つです。各教室や研究室に向かう学生や先生方が時に慌ただしく、時に談笑しながら、この階段を登る姿を目にすることができます。



jiman  
スポット

その  
2

二階から三階をつなぐ螺旋階段



地域文化学科  
生活デザイン学科  
生活栄養学科  
人間関係学科  
国際コミュニケーション学科

滋賀の美しさは  
琵琶湖だけじゃない！

その  
3  
jiman  
スポット



工学部棟からは近くには田んぼが、遠くには鈴鹿山脈の雄大な山並みが見えます。滋賀県は琵琶湖の風景をイメージしがちですが、この風景を見ればまた違った一面を感じることでしょう。



工学部棟の一部のトイレの手洗い場はデザイン面ではとても好感を持てます。しかし実際に使ってみると、使いにくさを感じます。ここで上手く手を洗える人は県大 jiman スタッフまで是非お知らせください。

jiman  
スポット

その  
2

デザインはいいけれど……



材料科学科  
機械システム工学科  
電子システム工学科

# 流体力学で かつての自然に近づける

学科長になって目指すものとは

今年度学科長であるとともに就職担当である南川先生は、「機械システム工学科が就職に対して強い学科であることをアピールしていきたい」と話している。また、「研究内容や教育内容という魅力以外にも、就職に強いことを高校生や保護者の方々に知っていただき、『県大に行きたい、通わせたいな』と思ってもらえるようにしたい」とも話している。このような考えの背景には、この先少子化で受験生が減る中で、魅力のある大学にしていきたい思いがあるようだ。



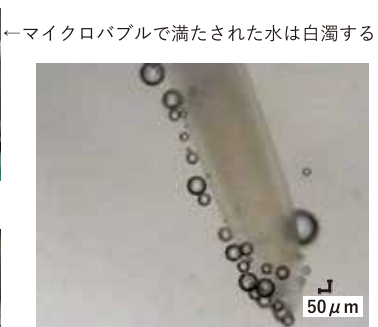
機械システム工学科  
南川久人先生

突撃  
jimboな先生

## 流体力学を用いて環境改善

南川先生が研究されている内容は流体力学の中の混相流工学の一つで、気泡工学という分野である。混相流というのは液体と気体、液体と固体、気体と固体など異なる相が混ざりあった流れのことをいう。先生は特にその中でも気液系（気体と液体が混ざった流れ）を専門とされている。

先生が研究されている内容にはマイクロバブルというものがある。マイクロバブルとは、超微細な気泡のことであり、南川先生はマイクロバブルを用いて主に



↑マイクロバブルの拡大図  
人の髪の毛の太さよりも小さい



↓マイクロバブル発生の様子



二つの研究を行っている。

一つ目は水質の改善である。以前行っていた、マイクロバブルを用いてダム湖の湖底に酸素を送り込む研究では、ダム湖の酸素濃度が上昇し、悪臭の発生を抑制することができた。水質が改善された要因は、水中の有機物を分解する微生物がマイクロバブルにより活性化したからである。先生の最終的な目標は、この結果を活用して近年水質が悪化している琵琶湖を昔のような自然が豊かな湖へと近づけることだ。

二つ目は農業の分野で、マイクロバブルを用いて肥料や農薬の使用量を抑えた作物を育てる研究である。この研究は環境科学部と共同で行っている。初めにホウレンソウの発芽への影響を実験したところマイクロバブルを用いると発芽率は8割程度になり、他の方法に比べ、2倍ほど高い結果となった。次にホウレンソウの水耕栽培への影響を実験したところ、培養液濃度100%にエアープンプを併用した栽培結果と培養液濃度を10%にしたものにマイクロバブルを併用した栽培結果はほぼ同じ成果になり、少ない栄養素であってもマイクロバブルを用いることで効果的に栽培することができた。（写真・右下）

このようにマイクロバブルを用いると水質の改善や農業による環境への負荷を

減らすことができるため、今後も研究を続けていくそうだ。



マイクロバブルと  
培養液濃度10%



培養液濃度100%

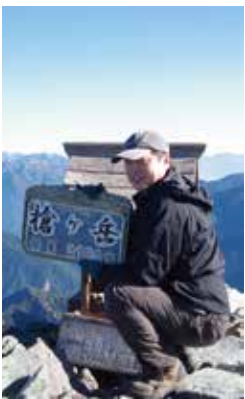
## 先生の元気の源に迫る

先生の元気の源は、ずばり山登りである。子供のことからの昆虫採集の趣味が高じ、山に登ることになったのが始まりだという。山登りをするうちに写真を撮ることが好きになったり、山から眺める星々の美しさから天文学が好きになったりと様々な分野に興味、関心を広げられている。今でも、夏休みには日本アルプスへ行かれるなど自然の中でリフレッシュされているそうだ。

## 受験生・学生みなさんにメッセージを

「高校生のみなさんに言いたいのは、機械関連のエンジニアの需要はまだまだまだ多くあるということです。日本が世界に打って出るためにはモノづくりが基本です。日本のモノづくりをどんどん発展させていくためにはエンジニアは重要な存在です。ですから理科系に興味があると、自然が好きというような人は工学系

を考えてほしいです。また、これだけ自然に恵まれた大学はそうそうないので、県大生には自然に接してほしいです。また勉強や研究を第一に頑張してほしいですが、学生のうちは時間を一番自由に使える時だと思うので、本当に何でもいから何か自分のやってみたいこと、しかも何かのためにやること、これは自分のためだけではなく長い目で見たら色々社会のためになること、そういうことを考えながらやってもらえたら嬉しいんです。自分の趣味を広げていくのもいいです。しかし、時間をつぶすためにゲームをやっているような人がいたらそれは本当にもったいない。その時間をもっと有効に使ってほしい、これは大学で教員生活をしている中でちょっと感じていたことです。」



南川久人（みながわひさと）

1995年4月・2000年3月  
滋賀県立大学講師  
2001年4月・2007年3月  
滋賀県立大学助教授  
2007年4月・2008年3月  
滋賀県立大学准教授  
2008年4月・現在  
滋賀県立大学教授

- 受賞・表彰**
- 地域文化学科  
亀井 若菜 准教授  
芸術選奨 文部科学大臣賞  
電子システム工学科  
畑中 裕司 准教授  
SPL Medical Imaging 2016  
Honorable Mention Poster  
Award
  - 国際コミュニケーション学科  
島村 一平 准教授  
第二回総研大科学者賞
  - 学生 (学年は受賞時点)
  - 材料科学科  
馬場 慎太郎 (4年)  
The 3rd KANSAI Nanoscience  
and Nanotechnology  
Symposium  
ベストポスター賞  
国際コミュニケーション学科  
中井 円翔、本城 志帆  
(2名とも3年)  
第9回森田杯・英文毎日杯 3位  
材料科学専攻博士前期課程  
長尾 歩 (2年)  
第5回CSJ化学フェスタ  
2015学生ポスターセッション  
優秀ポスター発表賞  
機械システム工学専攻  
益田 航 (1年)  
第16回計測自動制御学会  
優秀講演賞

- 生活デザイン学科**
- 西林 瑞基 (2年)  
みんなでシェアするエコアイディア  
アコンテスト「チエコ2015」  
ミエコ賞  
電子システム工学専攻博士前期課程  
前田 諒 (2年)  
電気学会  
電力技術委員会 奨励賞  
生活デザイン学科  
川合 梨香子 (4年)  
デザイン女子No.1決定戦  
2016インテリア・プロダクト  
部門 3位  
電子システム工学専攻博士前期課程  
田島 幹也 (1年)  
2015年度 VM Studio & TM  
Studio 学生研究奨励賞 優秀賞  
立木 宏和 (2年)  
佐茂 和輝 (1年)  
同奨励賞 審査員特別賞  
環境計画学専攻博士前期課程  
嶋崎 迅 (2年)  
DESIGN TAGACompetition2016  
準グランプリ  
環境建築デザイン学科  
神戸 涼 (4年)  
同 Competition 準グランプリ  
生活デザイン学科  
市井誠樹、高橋利貴、  
保科真喜子、松尾怜、村谷知華  
(5名とも4年)  
同 Competition 特別賞 (柿谷賞)

- 人事**
- 着任 平成28年4月1日付
- 堺井 拡 副理事長(兼)事務局長
  - 金岡 鐘局 工学部 教授
  - 砂山 渡 工学部 教授
  - 越山 雅文 人間看護学部 教授
  - 金子 尚志 環境科学部 准教授
  - 谷口 真紀 人間文化学部 助教
  - 森本 安紀 人間看護学部 助教
  - 喜多下 真里 人間看護学部 助教
  - 堀内 遥子 人間看護学部 助手
  - 吉村 晃 経営企画グループ 統括
  - 北村 善幸 学生・就職支援グループ 統括
  - 草川 佳代 地域連携推進グループ 統括
  - 岸村 隆志 総務グループ 副参事
  - 杉田 晃一 総務グループ 主幹
  - 西本 新 地域連携推進グループ 副主幹
  - 山口恵里佳 財務グループ 主事
  - 岡 一喜 学生・就職支援グループ 主事
  - 谷口 愛美 教務グループ 主事

- 所属替え 平成28年4月1日付
- 加藤 一郎 総務グループ 主査 (地域連携推進グループより)
  - 前川 美奈 総務グループ 主任主事 (財務グループより)
  - 鈴木 健太 財務グループ 主事 (学生・就職支援グループより)
  - 退職 川口 逸司 副理事長(兼)事務局長 平成28年3月31日付
  - 永淵 修 環境科学部 教授
  - 近藤 隆二郎 環境科学部 教授
  - 松岡 拓公雄 環境科学部 教授
  - 高松 徹 工学部 教授
  - 稲葉 博美 工学部 教授
  - 外狩 章夫 人間文化学部 教授
  - 渡邊 香織 人間看護学部 教授
  - 望月 紀子 人間看護学部 教授
  - 植村 小夜子 人間看護学部 教授
  - 高柳 英明 環境科学部 准教授
  - 井上 吉教 工学部 准教授
  - 山下 義裕 工学部 講師
  - 松本 健一 環境科学部 助教
  - 大橋 正治 工学部 助教
  - 藤島 和代 人間看護学部 助手
  - 高居 重裕 総務グループ 統括
  - 水野 潔 学生・就職支援グループ 統括
  - 退職 星野 敬子 平成28年5月31日付 地域共生センター 特定研究員



# 劇団深夜特急

劇団深夜特急と劇団ZEROの皆さん。夏の公演に向けての稽古にお邪魔させていただきました。中央は稽古中の様子。右は夏公演に演じる劇のワンシーン。

劇団深夜特急 /  
部員数：13人 (2016年6月現在)  
活動日：不定期  
HP：zeroshinya.wp.xdomain.jp

大学という垣根を超えて幅広く活躍する劇団深夜特急。3度の本公演に加え、滋賀県内の様々な場所で公演を行っている。  
夏の公演に向けて元気に稽古に励む滋賀県立大学の劇団員に突撃取材!!

**今回紹介するサークルは劇団深夜特急。取材させていただいたのは生物資源管理学科3年生の西岡麻帆さんと環境生態学科3年生の大槻美夏さん。**

**劇団深夜特急とは？**  
劇団深夜特急は主に滋賀県内で公演を行っている滋賀県立大学の演劇サークルと合同で活動しており、大掛かりな準備を要する本公演の他に、県立大学で催されている夏の「湖風夏祭」と秋の「湖風祭」や滋賀大の「滋大祭」では、お笑い芸人のネタを参考にしたコントなど幅広いジャンルで活躍している。

**劇団深夜特急の魅力は？**  
「二つの公演が終わった後の達成感が最大の魅力です。」  
大勢で一つの作品を作り上げていく劇団深夜特急。全てを自分達の手で作りに上げていくからこそ、話し合いでは自分の知らない分野について知る機会が多い。そのような中で新しい技術を身につけるのはこの上なく達成感があるという。常に新しいことを学び、取り入れることに対する意欲が劇団の活動を支えているのかもしれない。

**滋賀大学との活動について教えてください！**  
劇団深夜特急は滋賀大学の演劇サークル劇団ZEROと合同で活動している。稽古は主に県立大学で行っており、劇団ZEROのメンバーも県立大学へ来て練習している。二つの劇団は同じ一つの団体として活動しているので大学に関係なく大変仲が良い。互いの大学間のイベントで活動するため両大学を行き来することも多く、滋賀大学のイベントも自分達のもののように感じるんだとか！

**活動において元気の源になるものはなんですか？**  
「やっぱり稽古後に食べるご飯はすごく活力になりますね。」  
稽古では毎回のストレッチ、発声、立ち稽古などで、文化系サークルと言えど体力が必要となる劇団深夜特急。稽古後に仲間と食べるご飯は大きな活力になるに違いない。

8月11日と12日に県立大の交流センターで夏の本公演が行われる。数ヶ月の準備を積み重ねた大掛かりな公演。劇団深夜特急ZEROの元氣溢れる活躍に期待が高まる。公演予定の詳細情報は劇団深夜特急のホームページでチェックしよう。

## 劇団深夜特急のお二人から 受験生へのメッセージ!!



後悔しないように勇気を持って取り組んでください!  
環境生態学科 3年生 大槻美夏さん

自分がこれだと信じた道を突き進んでください!  
生物資源管理学科 3年生 西岡麻帆さん

## 2015 年度プログラム参加者のホームステイ体験レポート



### Darby Grachek さん

(ランシングコミュニティカレッジ)

Through USP's Summer Program I was able to participate in a weekend homestay with a Japanese Family. This was an absolutely amazing opportunity to experience Japanese culture and improve my Japanese language skills. The Miyaguchi family was incredibly welcoming and generous. During my stay I cooked with the family, tried many new foods, and even made sushi for the first time. I had a wonderful time playing games and talking with the family and their friends on Friday night. Then on Saturday my family was generous enough to take me with them to Universal Studios in Osaka, Japan. I learned a lot of new vocabulary and even some games to kill time while standing in line like "Shiritori" and "Janken". The rides and shows were amazing and it was so much fun to experience everything as a part of the family. Words cannot express how thankful I am for their hospitality and kindness. I'm positive that my time with the Miyaguchi family will be an experience that I cherish for the rest of my life!

滋賀県立大学のサマープログラムで、日本人家庭での週末ホームステイを体験することができました。日本文化を経験し、日本語を上達させる本当に素晴らしい機会となりました。お世話になった宮口家は本当に親切でとても良くしていただきました。ステイ中は家族とお料理をしたり、初めての食べ物に挑戦したり、お寿司も初めて作りました。金曜日の夜は家族とその友人と楽しい時間を過ごし、土曜日には USJ にまで連れて行ってもらいました。USJ では順番待ちで行列している間にも「しりとり」や「じゃんけん」を教えてもらい、新しい単語を覚えることができました。家族の一員として乗り物やショーを楽しむことができ本当に楽しかったです。宮口家の優しさとおもてなしには感謝の言葉もありません。これからの私の人生で、ずっと大切にしたい思い出となりました！



### Alexander Kitching さん

(ランシングコミュニティカレッジ)

My name is Alexander Kitching and thanks to the University of Shiga Prefecture, I had the wonderful opportunity to spend a weekend with a host family. Through this experience, I was able to learn a lot about the Japanese language and culture. And because my host family lived in a temple, I was able to learn several things about Buddhism as well. My host family also cooked for me many foods that I have come to love, such as Sukiyaki and Takoyaki. I tried my best to be open to new things and tried everything they placed in front of me. My host family was the traditional Japanese set-up where several generations lived together. I talked to the kids about cartoons, their parents about popular culture and cultural differences, and the grandparents about history and life in general. The family appreciated my perspective on life and I appreciated theirs. The family was kind to me always, even when we did not necessarily agree on something. And we actually found a lot of common ground. All in all, my weekend home-stay experience is an amazing one that I will cherish and remember for the rest of my life. Thank you, USP.

滋賀県立大学のプログラムで、週末ホームステイという素晴らしい機会に恵まれました。このホームステイを通して、日本語や日本文化、そしてホストファミリーのお宅はお寺だったので、仏教についても学ぶことができました。色んな日本料理も作っていただき、たこ焼き、すき焼きなど大好きになりました。新しい物には何でも挑戦しようと出された物には果敢に挑戦しました。私のホストファミリーは日本の伝統的な家庭様式で、3世代同居です。子供たちとはマンガについて、そのご両親とは日本のポップカルチャー、そしておじいさん、おばあさんとは歴史や日本での生活について話をしました。ホストファミリーはとても親切で、意見が違っても私の見解を認め、また私も彼らの意見を尊重することができましたが、なによりも共通点が多く見つかりました。このように、私の週末ホームステイはこれからも大切にしたい素晴らしい経験となりました。ありがとう USP!



## Summer Intensive Program

本学では、協定を締結している海外（主にアメリカ）のパートナー校の学生を主に対象とした、Summer Intensive Program（サマープログラム）という集中講座を開講しています。これは、交換留学プログラムの一つとして半年間、1 年間という長期間ではなかなか留学に来られない学生のために、協定校が夏休みに入る時期に合わせ実施しているものです。



※詳細は国際化推進室（A1-201）までお問い合わせください。

4年目の開催となる今年度は、コロナビアカレッジ、ランシングコミュニティカレッジ、オーバン大学モンゴメリー校、北イリノイ大学から8名の学生が4週間もしくは9週間のプログラムに参加します。

日本語の集中講義に加え、人間学科目の「Medieval Japan」を皆さんと一緒に受講するとともに、茶道、書道、生け花などの日本文化の体験や週末ホームステイ、そして信楽、京都、奈良などへのフィールドトリップ等盛りだくさんのプログラムです。フィールドトリップの一部は、県大であればどなたでも参加できますので、興味のある方は参加してみませんか？今年度のプログラムスケジュールは以下のとおりです。

これから留学予定の方、ちょっと留学生と交流してみたいな、という方、そして留学先で世話になった経験を今度は誰かに還元したい方。留学生も本学の皆さんとの交流を楽しみにしています。留学生の県大での滞在が素晴らしいものとなるよう、ぜひ気軽に声をかけてあげてください。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1		日本語		日本語			
2	特別講義	日本語		日本語	フィールドトリップ	休み	休み
昼休み							
3	人間学	日本語	フィールドトリップ	日本語	日本語文化体験		
4	人間学		日本語文化体験				
5							

2016年度プログラム実施期間  
4週間  
6月6日(月)～7月1日(金)  
9週間  
6月6日(月)～8月5日(金)

2016年度プログラム  
スケジュール  
6月17日(金) 奈良(東大寺)  
6月29日(水) 信楽  
(忍者村、信楽宮跡地、陶芸体験)  
7月8日(金) 京都  
(着付け体験等)  
7月13日(水) 清涼寺  
(坐禅体験)  
7月20日(水) カロム